

## 「楽しいおやつにするために」

7-1病棟：コロボックル 牧野仁美・中山陽子  
鈴木章子・八木文子  
本田妙子

### 〈テーマ選定理由〉

現在小児センターには、他病棟にはない、おやつが食事の間に出されている。PM 6時給食になり、以前PM 6時30分に配られていたおやつが、PM 3時に配られるようになり、スタッフの眼に多くふれるようになった。本来おやつとは、栄養補給が主な目的であり、入院している子供達にとっては、規制された入院生活の中での楽しみでもあるが、現在のおやつが、それを満たしているかどうか、いくつかの疑問があったので、これをテーマとしてとりあげた。

### 〈目標設定〉

おやつが、より栄養や量が適当であり、子供達が楽しんで食べられるようにする。

### 〈現状把握〉

大部屋に入院している3~15歳の19人の患児を対象に、毎日どのようなおやつが出されているのかをチェックした。ノートにおやつの商品目と喫食状況を調べた。子供達の感想をきいていった。

その結果、手作りのものの方が、子供達が喜んで食べていることがつかめた。同じものが月に何度も出て、長期入院者があきてしまうものがあることがわかった。量に関しては、幼児も学童も一般も同量であり残ることが多かった。食事のデザートが、またおやつにもでて、変化がないこともあった。内容が満足できるときと、できないときの差が激しい。外見上、楽しめるものであれば、子供達は喜んで食べた。(ex.うさぎのおさら、デコレーション)おやつ量が多すぎて、夕食がすすまない事がある。等の事がわかった。

### 〈原因の追求〉

まず、特性要因図をつくった。その中で、病棟で改善できる事として、量と環境について考えていく

ことにした(図1)。

### 〈対策立案〉

(1)楽しい雰囲気で作られるようにする。

①音楽をかける

②NS.保母がいて話かけ、コミュニケーションをはかる

③興味(おやつに対して)を増すような話をする

(2)病棟でそれぞれの児の食欲や年齢や摂取状況を考慮して分ける。

例えば、焼きそばは今まで、お皿に均一に分けられてきたが、ひとつにまとめてあげてもらい病棟で分ける。

既製のアップルパイ等は、今まで大きなものがそのまま出されていたが、それを何等分かに切って、欲しいだけ分けるようにして、あとでおかわりできるようにする。

サンドウィッチも、最低限食べてほしい量や種類を分けて、さらにおかわりできるようにする。

(3)それに加え、子供達の反応が、栄養課に伝わるように連絡カードを作っていく(図2)。

### 〈効果の確認〉

施行後、4週間、おやつを残した児の数を幼児、学童、一般に分け、品目別に調べて、子供達の感想を聞いていった。

結果

それぞれの児に適量であるようにしていったので、おやつをのこす児が少なくなった。

・幼児は、今まで残すことが多かったが、施行後は確実に減った。(塩せんべいは、施行後も一袋づつのため、大きな変化はなかった)

・学童も同様のことが言えた。

・中学生以下は、表の上では以前とそれほど変化が見られないが、以前は不足だったのがおかわりができ、満足できるようになった。

又、他には、食欲のない児に対しては、無理のな

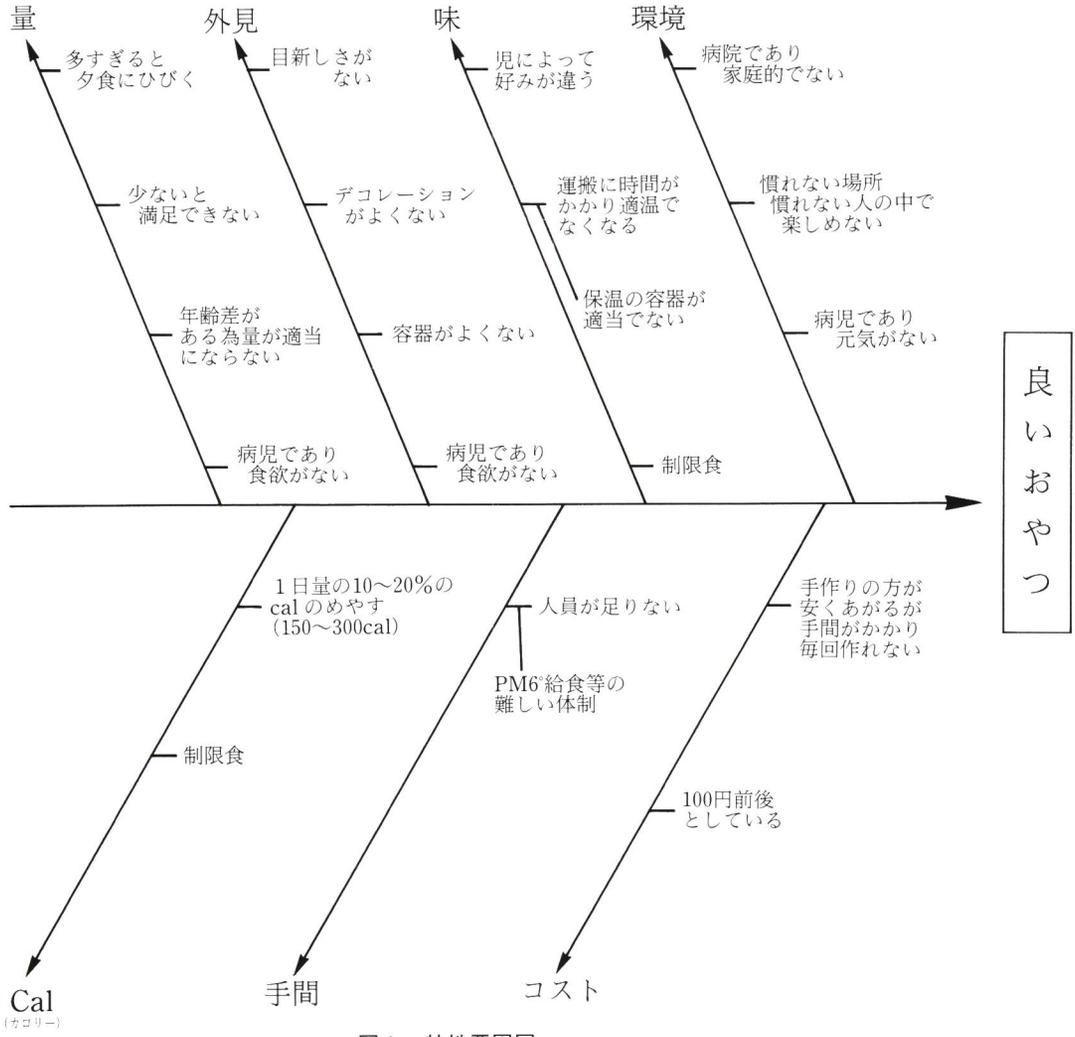


図1 特性要因図

い量になった。夕食にひびかないようになった。おかわりをする楽しみができた。ひとつのお皿にまとめてくるので、家庭で母親が与えるような雰囲気作りができた。そうすることによって、児との会話がふえ、児の嗜好、摂取状況等がわかるようになり、又、児からも要求が言える場ができ、よりよいコミュニケーションがはかれるようになった。残したものをゴミ箱に捨てるという行為をしなくてすむようになった。等の良い結果が得られた(図3、図4)。

栄養課との連絡カード(一例)

| 栄養課より     | 病棟より                |
|-----------|---------------------|
| 肉まん } ⑮   | 肉まん                 |
| ジュース } ⑮  | ・小さい子も半分にしておかわりをする。 |
| { 学 — 4   | ・学、一般の子はみんなおかわりをする。 |
| { 幼 — 13  | ・量…少し余りました。         |
| { 一般食 — 1 |                     |
| ポーロ } ②   |                     |
| シユース } ②  |                     |
| { 離乳 後期 1 |                     |
| { きざみ — 1 |                     |

図2

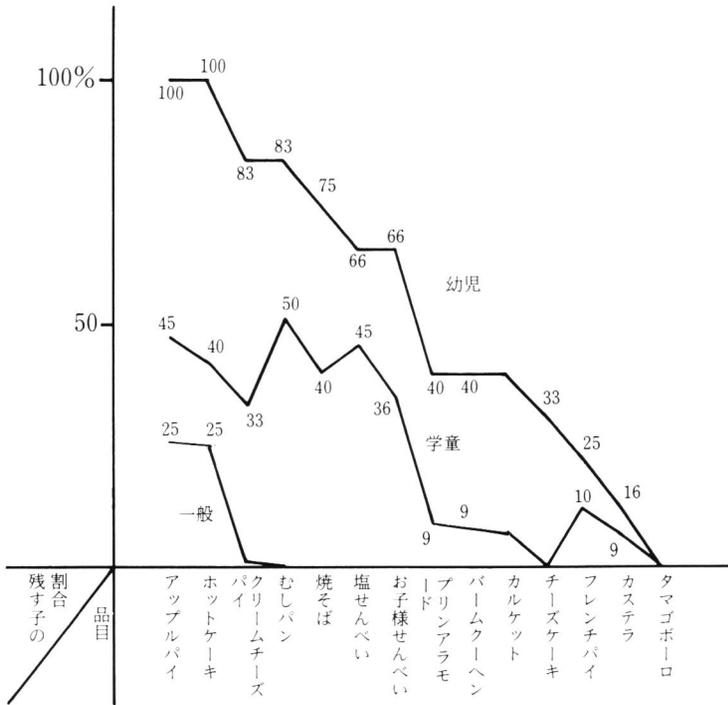


図3 品目別の残す子供の割合(施行前)

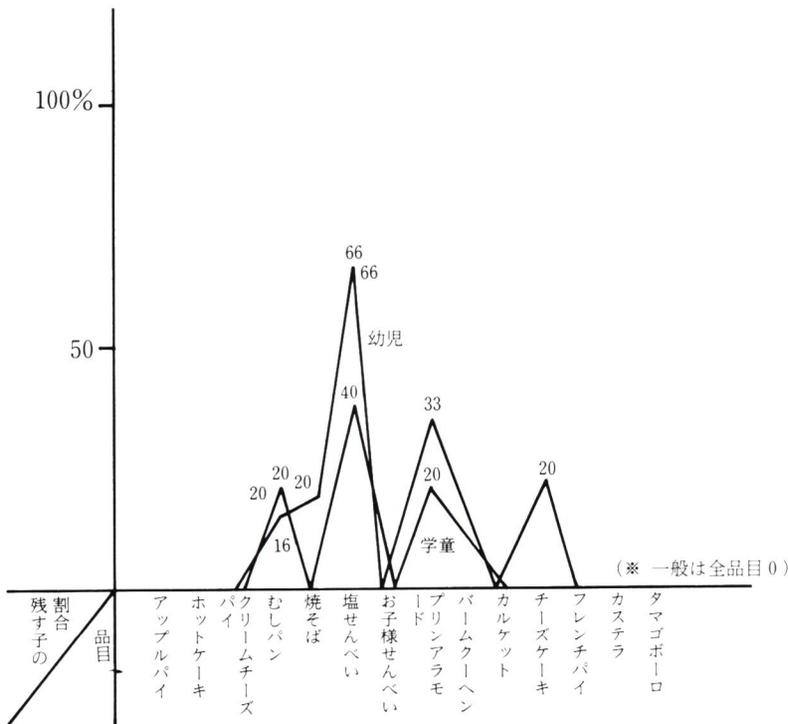


図4 品目別の残す子供の割合 (施行後)

〈歯止め〉

今後、おやつの中には、

- (1)楽しい雰囲気作りとし音楽をかけ、児への話しかけを行う。
- (2)上がってきたおやつを病棟でそれぞれの児に合うように配る。
- (3)栄養課への連絡カードを続ける。

〈おわりに〉

今回、おやつをテーマにとりあげ、活動していく中で、おやつが入院している児にとって、大きな楽しみをもつという認識を深め、そのおやつを、栄養面だけで考えるのではなく、精神面での楽しみとしてとられることも重要であると考えさせられた。今後、今回実施したことを継続していき、おやつが楽しい時間であるように努力していきたい。

しかし、おやつの内容に関しては、病棟だけでは、解決できない問題であり、栄養課との協力が必要である。栄養課が、規制された条件の中で、おやつをよりよくするために努力していることを、知ることができたので、ささいなことでも、カードを使って連絡をとりあい、おやつをより充実したものにしていきたい。